



広報

かじき

No.347
昭和58年

9 月号

発行 加治木町
編集 総務課



太鼓踊り (小山田地区)

勇壮な

太鼓踊り

真夏の青空に響くカネと
太鼓の音。揺れる羽飾り。

約三百七十年前、島津義弘公が、江戸での疫病退散の踊りを持ち帰り、始めたと伝えられる太鼓踊りが、八月十六日、四地区保存会九十四人の踊り隊によって勇壮に競演されました。

午前十時から、飯屋馬場で、ホタ振りを先頭に、真っ黒いまゆや鼻ひげを付けた武者姿の踊り手が、カネや太鼓を持ち、庭踊り等をリズムカルに踊り、沿道の観衆を魅了しました。

水災時の避難場所など

町水防計画を決定

〓町水防協議会〓

六月の町議会で設置が決まった町水防協議会は、八月二十二日、役場消防会議室で会合を開き、議会代表の下議長等二十人の委員に委嘱状を交付した後、「昭和五十八年度加治木町水防計画案」について協議し、決定しました。計画の概要は、次のとおりです。

水防に万全を図る

水防計画は、十一章から成り、第一章で、この計画の目的を、町内の各河川、海岸の洪水、高潮津波による水災を警戒・防衛して、これら水災による被害を軽減し、水防に万全を図ると規定し、第二章では、町長を本部長とする水防組織や、連絡通報の組織・体制を定めています。

第三章では、水防の区域を定めてあり、重要水防区域として決壊等が予想される網掛川、宇曾ノ木川が、特に危険な区域として日本山川、鹿兒島湾沿岸が、水防警戒を要する河川、海岸として日本山川、宇曾ノ木川、網掛川、加治木海岸（黒川・舌出し・振興地・須崎等の海岸）が挙げられて



昨年は日本山川が

昨年、日本山川が氾濫し、沿岸の町内が水に浸された。写真は、日本山川の氾濫の様子。



歩道にあふれる自転車

街を歩くと、道路のあちこちで不法駐車している自転車や、二輪車を非常にたくさん見受けられます。歩道をわがもの顔に占領しているため、歩行者はジグザグ通行をしなければならず、思わぬ事故にもつながりかねません。歩道は、歩行者の通る所。一人ひとりが注意し、歩道を本来の姿に戻しましょう。

自転車や二輪車の不法駐車をなくそう

第七章では、避難のための立退が定められており、洪水、高潮または津波により著しく危険が切迫したとき、必要と認められる区域の住民を避難させるための予定避難場所を定めています。みんなで水災に備えましょう。予定避難場所は次のようになっています。

河川、海岸、湖沼名	危険地区名	避難場所
日本山川	日本山里ノ上・下	加治木工業高校
〃	吉原	〃
〃	東吉原団地	〃
〃	小陣	町福祉センター
〃	日本山黒川	性応寺
黒川海岸	反土黒川	〃
舌出し海岸	港町、本町	町役場
振興地海岸	南塩入	〃
須崎海岸	須崎	岩原公民館

避難場所

◎交通事故発生状況

区分	昭和58.8.16現在			前年同期増減		
	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者
加治木町	94	0	119	+20	-3	+32
始良町	105	2	135	+8	-1	+9
溝辺町	27	0	39	+12	0	+21
蒲生町	13	0	15	-4	0	-6
合計	239	2	308	+36	-4	+56

交通事故が増加しています。お互いに注意しましょう。

秋の全国交通安全運動

9月21日～30日

秋の全国交通安全運動が、九月二十一日から九月三十日まで十日間、国民総ぐるみ運動として展開されます。今回の運動の重点は、☆歩行者および自転車利用者、特に子どもと老人の交通事故防止、☆二輪車の安全利用、特に交差点での安全確認とヘルメット着用、☆安全運転の確保、特に安全速度の遵守とシートベルトの着用となっています。



大きく育って

八月十一日、錦海漁協では、マダイの稚魚六万匹を始良町・重富沖に放流しました。
これは、錦江湾をマダイの宝庫にしようと県が進めている事業の一環として実施したもので、今年で四回目になりました。
放流したのは県水産試験場栽培漁業センターで育成した、体長約七センチの稚魚で、三年後には、一・一・五に成長し、水揚げされるようになるそうです。また今

大きく育って

マダイの稚魚六万匹放流



手つきもあざやかに

小学校五・六年生と中学生、母親を対象に、「親子栄養教室」が夏休み期間中、町内十か所で開催され、三百二十九人が栄養についての学習や、郷土料理等の調理実習を行いました。男の子もなれない手つきながら名コックぶりを発揮する等盛会でした。
これは、育ち盛りの子供を丈夫に育てようと保健衛生課が行っているもので、今年が五回目です。
八月十一日、岩原公民館で開かれた講座では栄養士が「今、身近かに加工食品が出回っており、手を加えなくても良い食生活がなくなる。しかし子供のうちから成人病等も起こっている」と講話。親子で、野菜をたっぷり使ったお好み焼き等の調理を行いました。

僕も名コック

十か所で親子栄養教室

小学校五・六年生と中学生、母親を対象に、「親子栄養教室」が夏休み期間中、町内十か所で開催され、三百二十九人が栄養についての学習や、郷土料理等の調理実習を行いました。男の子もなれない手つきながら名コックぶりを発揮する等盛会でした。



放流する吉蘭組合長

年錦江湾全体では、百万匹の稚魚が放流され、一部の稚魚には標識がつけられており、放流後の移動や成長の状況を調査することになっています。
当日は、錦海漁協の組合員等十七人が、「大きく育って」と願いを込めて次ぎに放流しました。
また、漁協では「十八センチ以下のものは捕らず、再放流して欲しい」と呼びかけています。
網掛川漁協（吉蘭清組合長）では七月二十七日、うなぎの稚魚十キロを辺川で放流しました。
これは釣り人に楽しんでもらおうと、増殖事業の一つとして毎年行っているもので、川内川で捕れた体長約二十五センチの稚魚を次ぎに放流しました。

うなぎを放流

宇曾ノ木川に

六分団がソフトに

熱戦

消防法施行記念行事



優勝した中央分団

消防法施行記念日の八月一日、町消防団（郡山利春団長、団員百六十二人）では、町営グラウンドで各分団対抗のソフト・ボール大会を行い、団員の士気を高めました。
大会に先立ち、昭和五十七年度の日本消防協会会長表彰等の伝達が行われ、大吉操副団長ら十五人に町長から表彰状が伝達されました。
試合は、二バートに分かれて熱戦が展開され、決勝戦では中央分団が十三対一で小山田分団を破り優勝しました。

消防法施行記念日の八月一日、町消防団（郡山利春団長、団員百六十二人）では、町営グラウンドで各分団対抗のソフト・ボール大会を行い、団員の士気を高めました。
大会に先立ち、昭和五十七年度の日本消防協会会長表彰等の伝達が行われ、大吉操副団長ら十五人に町長から表彰状が伝達されました。
試合は、二バートに分かれて熱戦が展開され、決勝戦では中央分団が十三対一で小山田分団を破り優勝しました。

役場職員の異動

九月一日付

▽新規採用（内配属課）

中村和子（福祉課・寮母）

▽退職（八月三十一日付）

平田瑞枝（福祉課・寮母）

▽鹿児島県消防協会総裁表彰（功績章）

辺川分団班長 鹿島 一人

辺川分団班長 上猶 廣見

中央分団班長 分都 省吾

中央分団班長 日高 利

（精進章）

錦江分団班長 今別府盛義

錦江分団班長 馬場 幸生

辺川分団班長 小宮路福吉

小山田分団班長 松葉瀬義美

西別府分団班長 榎谷 則良

西別府分団班長 池上 時伸

錦江分団班長 大宮路鶴美

錦江分団班長 川上 俊治

（勤続章・二十年）

中央分団班長 増田 新

（勤続章・二十年）

辺川分団班長 吉村 虎男

辺川分団班長 鹿島 一人

中央分団班長 上猶 廣見

中央分団班長 分都 省吾

中央分団班長 日高 利

ソフト・ボール大会結果

優勝Ⅱ中央分団、二位Ⅱ小山田分団、三位Ⅱ西別府分団・錦江分団

元気で長生きを

9月15日は敬老の日

長寿町一は一〇二歳

扇園カ子子ヨさん



長寿町一の扇園カ子子ヨさんと長男の敬次さん

九月十五日は敬老の日です。

現在、我が国のお年寄り（六十五歳以上）は一千万人を越え、総人口の約九%を占めています。

町内の六十五歳以上のお年寄りは二千七百八十三人で、総人口に占める割合は十二%となっています。（五十五年国勢調査結果）

うち九十歳以上の長寿者は四十四人となっています。

町一番の長寿は、上木田の扇園カ子子ヨさんで、明治十四年六月二日生れの一〇二歳。

長男の敬二さん（七九）、孫の幸弘さん（五一）、孫嫁、ひ孫二人の暖かい家族に守られて、元気で敬老の日を迎えられます。

九十歳以上は

四十四人

九十歳以上の長寿者は次のかたがたです。これから、もっともつと長生きしてください。

氏名	年齢	自治会
扇園カ子子ヨ	(一〇二)	上木田
前昌半左衛門	(九八)	下嶽
花車禮シオミツ	(九八)	望岳園
金沢 清次	(九七)	江 湖
隈原 ナツ	(九七)	隈原上
佐藤 キワ	(九五)	江 湖
白坂 キクノ	(九五)	東諏訪
豊村 精助	(九四)	中福良後
上村 ユキ	(九四)	菖蒲谷下
川原 ワイ	(九四)	茶碗屋
上小牧モト	(九四)	里ノ上
神村 喬成	(九三)	萩 原
永井 タカ	(九三)	中塩入
竹下 アイ	(九三)	南塩入
石井 エダ	(九三)	西塩入下
今村 クニ	(九三)	須 崎
川畑チヨミツ	(九三)	望岳園

溝口 ノキ	(九二)	天神
立元 金之助	(九二)	垂ノ口
庄村 栄二	(九二)	今 町
山内 テル	(九二)	今 町
宮田 アサ	(九二)	岩 東
前昌 アグリ	(九二)	下 嶽
野口 伊四郎	(九二)	望岳園
曾木 ヒデ	(九二)	柳 田
松下 アグリ	(九二)	小 陣
中摩 仙	(九二)	竹 下
内村 笑蔵	(九二)	札 立
岩元 恒	(九二)	川 原
湯川 フサ	(九二)	弥 勒
森本 イト	(九二)	桃 野
山口 ノキ	(九一)	中野ヶサグイ
高木 モヨ	(九一)	望岳園
服部 タカ	(九一)	望岳園
小倉 トモ	(九一)	萩 原
川崎 清二	(九一)	柳 田
岩下 ヒデ	(九一)	竹 下
宮崎 スエ	(九一)	西反土後
小迫 嘉太郎	(九一)	端 山
有馬 清一	(九一)	西 町
原田 ヒサ	(九一)	天 神
宮路 サダ	(九一)	須 崎
享保スエキク	(九一)	菖蒲谷下
山口 清	(九一)	下 嶽

冷汁や草履を子どもと

ふれあい事業を進める

弥勒老人会



ここはこうして…草履づくり

町の「老人と子どもふれあい事業」モデル地区として指定を受け、活動している弥勒老人会（湯川武雄会長、会員五十六人）は、八月七日、冷汁や草履、七夕飾りづくりを子どもといっしょに楽しみました。

この日は、小学校五、六年の男子はお年寄りから草履づくりを習ったり、小学校一年から四年生は七夕飾りづくり、六年生以上の女子が冷汁づくりを行い、老

人会や、育成者のかたがたは、自分たちの知識や経験を子どもたちに伝えようと、熱心に指導していました。

昼食は、みんなで作った冷汁。妻ごはんに冷たいみそ汁をかけ、上にはキュウリ、青じそ、カマボコ、ネギ等をのせた昔の夏の昼食の味はまた格別で、おかわりをする子どもたくさんいました。

昭和四年ごろ食べていたと言われるお年寄りは「昔は麦飯にみそ汁をかけただけのものだ。久しぶりに食べたが、昔の味はもう忘れた」と話されました。

平田静哉自治会長は、「老人会の方々が熱心で、協力してくださるのでありがたい」と話され、湯川老人会長は「草履づくりを教えているが、今の子どもたちはワラが使えず、なわさえ作れない。しかし手づくりや、ふるさとの精神を教え、伝えてゆく事が大切だ」と話していました。

午後からは、全員で七月に植えたからいも畑の草取りを行った後、ゲートボール大会を実施し、老人と子どもふれあいが一層深まりました。

弥勒地区ではこれからも十五夜等を通じて、ふれあいの活動を進めていく事にしています。

なおこの日の様子はKKB鹿児島放送の「ふれあい鹿児島」でも紹介されました。

老人会の皆さん、これからも、もっともつと長生きし、子どもに知恵や経験を伝えてください。

夫婦で長寿一九〇歳

前 畠 半左衛門さん (98)
前 畠 アグリさん (92)



お元気な前畠半左衛門さん・アグリさん夫婦

ご夫婦の年を合計すると百九十歳という長寿なお二人は、西別府・下嶽の前畠半左衛門さん(九八)とアグリさん(九二)のご夫婦。奥さんのアグリさんは、足が少し不自由ですが、半左衛門さんは今でも、朝夕の涼しい時などは、畑に出て野菜の草取りをされるなどお元気です。これからもご夫婦仲良く長生きを……

敬老の日によせて

町長 東 國雄

明治・大正・昭和と激動の時代をひたすら社会のため、家族のために、心血を注いで参られた皆さん、長寿ほんとうにおめでとうございます。

九月十五日は敬老の日。人生の永い尊い経験をつまめた、お年寄りに感謝と、尊敬の気持ちをあらわす祝祭日です。

会や家庭の中で、生きがいのある生活ができるよう、保健医療対策や、社会活動への参加などこれからも力いっぱい老人福祉事業を進めてまいりたいと思います。

皆さん自らも、常に心身の健康に注意され、今日まで培ってこられた知識と経験をより一層社会のために役立ててください。

加治木町民みんなで、皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。

鶴ヶ嶺を育てたお母さん

福蘭ハツエさん(76)



ゲートボールが大好き

昭和二十二年に相撲界に入門し、現在は鶴嶺山、逆鉾、寺尾の三人等を鍛えている井筒親方(元鶴ヶ嶺)を育

のようにかよって腕をみがき、あちこちの試合にも出場されるそうです。

三人のお孫さんの活躍を期待します。これからお元気で……。

てたお母さんが、小山田・岩六の福蘭ハツエさん(76)。

「部屋に遊びに行かれますか」と聞くと、「男ばかりで少しこわい気がする。あまり」と答えられました。

楽しみはゲート・ボール。竜門小学校のゲート・ボール場に毎日

詩吟・民謡・健康体操に

石原 孝さん(81)



健康体操もラクラク

鹿児島吟道会・加治木支部の責任者である石原孝さん(柳田)は、明治三十四年生まれ、八十一歳。

石原さんは十五年の吟道修業の外、健康体操を始めて三年目。今年は町の社会教育学級の民謡と生花の講座にも入講し、学習されています。

特に月二回の民謡は楽しみとかで「足・腰をシャンとしなければならず、若返りにはもってこい」と話されました。

新鮮な魚を

お年寄りに

お年寄りに新鮮な魚を食べてもらい長生きをと、須崎の郡山彰さんは八年前から、加治木望岳園(高田玉子園長)のお年寄りを「たて網漁」に招待しており、今年も八月九日、二十人を招きました。

お年寄りの中には顔なじみの人もあり、このシーズンを首を長くして待っている人も多いそうです。

お年寄たちは、真夏の潮の香りを胸一杯に、取り立ての新鮮なキスやアメ等の料理に舌鼓を打ちました。

長寿の秘けつを尋ねると、「民謡の講座等に行くことで多くの人と友達になります。人とのふれ合いは気分を若くしてくれます。」

「また、体を動かし、頭を使うことが若さを保つ秘けつかも」と話されました。

家でも、朝から庭掃除や野菜の草取り、それが終ると畑の手入れ等といつも動いているとか。

一人住まいのため、出来た野菜を人にあげるのも楽しみの一つ。今日も健康体操に汗を流していらっしゃいます。これからお元気で長生きしてください。



郡体で優勝したソフトボールチーム

第十五回始良地区体育大会は、始良西部地区を主会場に八月六日、七日の二日間行われ、加治木町は総合で四位となりました。競技別では、ソフトボールが混成の部で優勝したほか、二位には、軟式庭球の男子、弓道、ソフトボール（一般）が、三位には、柔道、卓球が入賞する等熱戦が展開されました。

ソフトボール（混成）が優勝

始良地区体育大会



九州大会で四位に

加治木中学校弓道部の女子チームが、七月二十五日県営弓道場で開かれた県中学総体・団体の部で、昨年に引き続き二連覇し、八月八日熊本県で開催された、九州大会に出場しました。九州大会では、十四中と健闘。同じ十四中の熊本県チームと三位決定戦を行いました。惜しくも敗れ、四位となりました。

県中学総体で二連覇

九州大会に出場 加治木中弓道部女子



優勝した岩原西チーム

錦江一地区公民館（村下久信館長）が主催する親子ソフトボール大会は、八月十七日から十九日の三日間、町営グラウンドで開催され六チームが各自治会の応援を受け、熱戦を展開しました。これは、自治会とおしの交流を図り、また、親子のふれ合いを深めようと実施しているもので今年で三回目になりました。今年は、高校生も初参加し大会を盛り上げました。決勝戦は、岩原西チームと東塩入チームが対戦。十一対六で岩原西チームが東塩入チームを破り、優勝旗を手に入れました。

錦江一地区親子ナイターソフト

今年は高校生も参加

ふくしの窓口

⑦

父のいない児童等に 児童扶養手当を支給

離婚や死亡などのために父と生計を同じくしていない満十八歳未満の児童、または父が重度の障害の状態にある子（二十歳未満）を監護・養育するときは、児童扶養手当が支給されます。

▽支給額

①児童一人の場合

月額：三、七〇〇円
月額：三、七〇〇円
月額：三、七〇〇円
一人当たり二、千円の加算
△支払期
十二月、四月、八月（支払いの前四か月分を郵便局で支払います）
なお、公的年金受給者の適用除外や所得制限もありますので詳しいことは町福祉課へ。

身障者を慰問

町老人クラブ連合会

町老人クラブ連合会では、「愛の一円玉」運動で寄せられた基金を活用し、身障者のかたがたへ慰問品を贈る活動が続けており、今年度は、重度心身障害者（二種一級）のかたがた九十四人に慰問品が届けられました。

八月五日には、町老人クラブ連合会の稲田会長が、竹下の四元利憲さん（六〇）宅を訪問し、慰問品を手わたし「障害にめげず頑張ってください」と激励しました。

更生保護

相談所

毎週水曜日

町保護司会では、次のとおり更生保護相談所を開設しています。ご利用ください。

○開設日：毎週水曜日

○時間：午前九時～正午まで

○相談内容：学生、生徒等の非行や、家庭で困りの方、心身障害者の就職、生活指導について相談に応じます。

○秘密は厳守し、保護者といっしょになって更生への道を話し合います。



ラケットボール大会で優勝の城西チーム

親子ソフトボール大会と同じ八月二十一日、地区対抗女子親子ラケットボール大会が町営グラウンドで開催され、九チームが暑い夏の日差しの中で好ゲームを展開しました。決勝戦では城西地区と、永原地区が対戦。城西地区が六対二で永原地区を破り優勝しました。結果は次のとおりです。▽優勝：城西地区▽二位：永原地区▽三位：城東地区

城西地区が優勝
女子親子ラケットボール大会

城東地区が二連覇

八月二十一日開催された地区対抗男子親子ソフトボール大会は、九チームが参加し、町営グラウンドで地区民の声援の中、熱戦を繰

りひろげました。結果は次のとおりです。▽優勝：城東地区▽二位：城東地区▽三位：錦江第一地区

城東地区が二連覇

男子親子ソフトボール大会



二年連続町一に城東チーム

青少年の豊かな心を育てよう

⑤

いまの子供たちは、物に恵まれた社会に育ち、飢えを知らない世代といわれています。

しかし、その一方で、この社会が作り出した教育・しつけでのさまざまな「マイナス面」が目立ってきています。

「いい中学、いい高校・大学へ」といった教育に対する過熱、急激な都市化などによる心の荒廃や非行の増大、さらに学生が実社会に出たがらない、いわゆるモラトリアム現象……。現代は、青少年の人間形成にとって好ましくない状況が多いといえます。

いくら物に恵まれ、社会が豊かになつたとしても、それがそのまま心の豊かさにはつながらない——このことをもう一度確認し、新しい時代にふさわしい教育のあり方を見極め、実践していくことが大切です。子供たちの健全な成長にとって大切なのは、基本的な生活習慣が身に付いていることです。社会生活に適応していくために欠かせない基本的なものの考え方、道徳に基づいた行動の仕方、

こうした基本的な生活習慣は、家庭をはじめ友達や社会の中で自然と身につけていくものといえます。

しかし現実には目を向ければ、あ

基本的な生活習慣

子供の健全な成長に欠かせない

基本的な生活習慣を身につけさせるために

▼あいさつ▼

「おはよう」「ただいま」「おやすみなさい」など、家族どうしのあいさつができるようにする。

また、「あいさつ通り」「あいさつ広場」を利用したり、山歩きなどの機会を利用して、見知らぬ人にもあいさつや会釈ができるようにする。

▼交通ルール▼

交通信号を守る、横断歩道を渡るなどの交通ルールを身につけさせる。

▼時間の励行▼

帰宅時間や寝る時間など、約束の時間が守れるようにする。

▼思いやり▼

相手の立場が尊重できるようにする。

▼公德心▼

廃物で何かをつくるなどして、自分の物に限らず、公共の物を大切にすることを養う。



お父さん『もったときびしく育てて』

父と子が意見交換

父親土曜セミナー



お父さんと語る

自分勝手に生きているように思う。もっと厳しく育てて、等と厳しく、子どもの勉強にも関心を持ってくれる父親像を求めている意見が多く出されました。父親からは「子どもの方から厳しさを言われたのはうれしい。これからのセミナーでそういう父親になれるよう学習したい」という意見が出される等実り多い話し合いでした。

蒲生田通りの七夕飾り

七夕飾り



風に揺れる七夕飾り

八月三日、蒲生田通りに七夕が飾られ、通行人の目を楽しませました。

これは町内の子供会が、会員相互の友情を深め、七夕の伝説や郷土の行事を知る機会をつくろうと「町子ども七夕まつり」を開催し共同制作したものです。

講演会やバレーで親ぼく

青少年ふるさと大会

町青少年ふるさと大会（教育委員会主催）が八月十七日、加治木

中学校で開催され、中・高校生百六人が参加し、講演会やバレーボール、ソフトボール大会で親ぼくを深めました。



広津先生の講演

これは、町内の高校生の連帯性を育て、ふるさとづくりに参加する青少年の育成を図ろうと初めて開催したもので、鹿児島南高校の広津匡一先生の「陸上ひとりごとノートより」と題する講演を聞いたあとスポーツに興じました。

郷土史 探訪

③

春日神社

広津先生は、「スポーツで大切なことは心です。個人は人とのかわりの中で伸びるものです。指導

を受ける時は、小さな器でもいいから、漏れない器を準備して欲しい。」と講演されました。

春日神社と加治木氏の興亡の歴史は深くかわっています。

平安時代の中頃、加治木は大蔵氏という郡司によって治められていましたが、京都での藤原道長との権力闘争に敗れた藤原経平が加治木に流されてきました。経平は加治木莊園を治めていた大蔵良長の娘「肥喜山殿」と結婚し、経頼をもうけました。

敗れるまで約五百年余り加治木氏による治世が続きました。春日神社は木田・高井田にあり、加治木では一番古い神社だと言われています。

祭神は、加治木氏と関係の深い藤原氏の祭神である「天児屋根命」「武甕槌命」「奇主命」「姫大神」の四神がお祭りしてあります。

経頼は加治木経頼と名を改めそれからその子孫が加治木を治め、一四九五年（明応四年）加治木久平が島津氏との戦いに

神社の起りは、加治木氏が興った頃に、藤原氏の氏神である奈良の春日大明神の御神体を、筒井左衛門重次という人が護持してきたと言われています。

その後、島津氏の時代になっても春日神社は手厚く保護され祭田等の寄進を受け祭祀が行われたとのことです。

現在祭りは三月、十月、十一月の各月十九日に行われます。神社の拝殿には、島津久直筆の「克誠」の額面が掲げられています。（次回は「加治木城」を紹介します。）





歌う新沼謙治

町商工会主催の第十七回夏まつりが、八月五日、六日の二日間、

にぎわった花火と歌謡ショー



にぎわったパレードと花火

二千人が踊りの輪

第十七回 夏まつり

加治木港を会場に行われ、町内外から詰めかけた二万人を越す大観衆でにぎわいました。
一日目は、日本舞踊やノド自慢大会が舞台で開催され、また夏の夜空に次つぎに上がる三千発の花火は錦江湾を七色に染め、集まった観衆を魅了しました。
二日目は、午後三時から恒例のパレードが今年からコースを変えて役場から出発し、蒲生田通りを中心に行われ、小・中学生のブラスバンドを先頭に、商工青年部の



夏まつりで演奏

加治木中学校のブラスバンド部（池畑裕子部長・部員二十三人）が、七月二十九日県文化センターで開催された県中学音楽コンクールの吹奏楽Bの部で銅賞に選ばれました。
部は五十七年五月に発足。池田紀子先生が指導されており、約一ヶ月半練習した「桂冠詩人」の演奏が優秀と認められたものです。部員は女子が多く、男子の加入が少ないのが悩みとか。今年の夏まつりでも演奏を披露しました。

吹奏楽の部で銅賞に 加治木中ブラスバンド部

県中学音楽コンクール



涼を求めて

踊り連等三十三連・約二千人が踊りの輪を作り、「ハンヤ節」や「オハラ節」を披露しました。
夜は、六時から加治木港の舞台でオーブニング。
加治木中学校のブラスバンド部の演奏や三B体操、日舞等の後、

お待ちかねの新沼謙治がヒット曲「嫁に出来ないか」や、新曲の「風と二人づれ」等を披露。
観衆の盛大な拍手のうちに、二日間にわたる夏の祭典は幕を閉じました。



短命の声いさぎよし朝の蟬

井之上透山

星生る残照長き夕焼に

上野 光

火山灰に耐へて夾竹桃の大並木

恒吉 斗南

花火待つばかり残れる堤防に

横山 江南

山肌のけずられろる大暑かな

柳田 稔

どんよりと日は翳りつぐ原爆忌

鶴田 耕

遠花火祭はついぞ見に行かず

高木 正男

島々のひと目に見ゆる夏座敷

古江 重美

切れば切る程にひこばゆ楠古木

宮脇 思川

霧島の青嶺異形の雲湧けり

加藤 白柳

流灯の故人のごとく傾ぎゆく

川崎 黒兎

盆僧の白足袋少し汚れて

松下 松風

税は納期内に

今月は、保険税

三期の納期です。

お知らせ



五十九年歌会始の

お題は「緑」

昭和五十九年歌会始のお題が、「緑」と定められました。

詠進歌の詠進要領は、次のとおりです。

▽詠進歌は、自作の歌で一人一首とし、未発表のものに限ります。

▽用紙は、半紙（習字用の半紙「白紙」がよい）とし、毛筆で自書してください。

（病氣等のため毛筆で自書することができない場合は、代筆して

も差し支えありませんが、代筆の場合、すべてその理由を書いた別紙を添えてください。）

▽点字での詠進も差し支えありません。

▽書式は、半紙を二つ折りにし、開いて右半面にお題と歌を、左半面に郵便番号、住所、氏名（本名ふりがなつき）、生年月日及び職業（なるべく具体的に）を書いてください。（書式図参照）

▽詠進の期間は、九月一日から十月十一日まで、郵送の場合は、消印が十月十一日までのものを有効とします。

▽郵便のあて先は、「〒100東京都千代田区千代田一番一号宮内庁」とし、封筒に「詠進歌」と書き添えてください。

※疑問な点があれば、直接、宮内庁式部職あてに、郵便番号、住所氏名を書き、返信用切手をはった封筒を添えて、九月末日までに問い合わせてください。

住宅統計調査にご協力を

十月一日現在で住宅統計調査が実施されます。この調査は、「住宅の国勢調査」といわれる大規模な調査で、私たちの生活の基盤である住宅の状況を明らかにするとともに、国や県・市・町の住宅建設計画、都市計画、環境整備計画などの立案のための資料として広く利用されます。

調査対象となる世帯は、全国で約四百万世帯、本町でも約五百世帯が調査の対象となります。

九月下旬から、調査員が調査票を持って、対象家庭にお伺いします。その際、協力をお願いします。

なお、調査票に記入された事項は、統計を作るだけに使うもので、そのほかには一切使用しません。

（書式図）

（約24センチメートル）

職業		郵便番号		住所		氏名		生年月日	

（約33センチメートル）

うぶ声

七月二十一日から
八月二十日まで受付分

出生児	保護者	自治会
岩屋 志歩	繁幸	中福良後
大迫 洋和	生雄	赤坂
牧野 友昭	昌昭	蔵王団地
黒田 康夫	道夫	萩原
川畑 祥子	信廣	原ノ門
下原 達也	浩二	垂ノ口
中原 雄介	憲秋	永原
徳留 由佳	祐二	蔵王団地
森本 研人	千治	春日団地
中尾 元	千秋	蔵王団地
佐々木良美	良次	赤坂
鹿倉 伸之	裕之	天神
今吉 美樹	孝一	今町
丸岡 恵美	幸文	赤坂

心配ごと相談

毎週木曜日・午前中

福祉センターで……

お気軽にどうぞ。

御寄付

香典返しのご代わりにご寄付をいただきます。厚くお礼申し上げますとともに故人のご冥福をお祈りいたします。（一）内は故人。

町社会福祉協議会へ

三万円
高井田 八木ヤス子（夫道夫48）

町育英奨学資金へ

五万円
東諏訪 和田 寛（子ヨ）
三万円
南堀入 川崎 廣（タケ）
八月二十日までのご寄付を掲載いたしました。

外山 清香	義昭	豊町
米澤 宏平	哲郎	田中
東村 杏美	隆志	赤坂
山下奈津子	貴志	西堀入上
江口あやみ	和博	春日団地
犬童 真人	米千	反土黒川
上古立麻衣	健一	岩原東
山崎 俊輔	貴夫	蔵王団地
久保香林奈	信行	高井田
木谷 友紀	浩一	萩原
三万円		
向江町向江シツ（母川野イン84）		
三万円		
新中 本村英昭（母ユウ91）		
五万円		
田中 池田正男（母ツナ83）		
三万円		
里ノ下 佐藤次男（母アカ76）		
五万円		
南堀入 川崎 廣（母タケ79）		
十万円		
田中 黒江 勲（母スミ74）		
三万円		
菖浦谷下 畠中キヨ（夫清次88）		
三万円		
端山 今西マサノ（義父光男74）		
二万円		
市来原 溝口イツ子（夫文男50）		